

安全報告書

2013



この安全報告書は、当社鉄道事業における輸送の安全確保のための取り組みや、その成果をまとめたものです。ご家庭に持ち帰ってお読みいただき、ご意見・感想をお寄せください。

箱根登山電車

箱根登山ケーブルカー

目次

1. ごあいさつ	1
2. 基本方針と安全目標	1
(1) 安全行動規範	
(2) 安全目標	
3. 事故の発生状況とその再発防止措置	2
(1) 鉄道運転事故	
(2) 災害	
(3) 輸送障害	
(4) インシデント	
(5) 行政指導など	
4. 輸送の安全確保のための取り組み	3
(1) 安全重点施策	
(2) 教育・研修	
(3) 異常時総合訓練	
(4) 安全のための投資と支出	
(5) 安全の日の制定	
5. 当社の安全管理体制	6
6. 地元の皆さまとの連携	8
(1) 幼稚園で安全教室を実施しました	
(2) こども110番の駅	
(3) 自動体外式除細動器 (AED)	

表紙:2012年10月に使用開始した箱根湯本駅1番線ホーム転落防止柵

1. ごあいさつ

皆さま方には、日頃より当社鉄道線および鋼索線をご利用いただきましてまことにありがとうございます。

当社は、国際観光地箱根を代表する交通機関として、「輸送の安全確保」を経営理念の第一に掲げ、日々、安全で安定した輸送に努めております。

この安全報告書につきましては、鉄道事業法第19条の4号の規程に基づき、毎年度作成しているもので、内容については、当社の輸送の安全確保のための取り組みや安全の実態について、広く皆さまに公表し、ご意見ご感想をいただくとともに、会社自らも事故ゼロ継続の指針としているものであります。

当報告書は、2012年度の状況について報告いたしておりますが、本文中の「事故の発生状況とその再発防止措置」にもありますように、まことに遺憾ながら2012年6月19日に列車脱線事故を発生させてしまいました。幸いにも、乗車されていたお客さまにけがはありませんでしたが、翌日の夜8時に復旧するまで丸1日、鉄道線116本が運休する事態となりました。ご利用されるお客さまに多大なるご迷惑をお掛けいたしましたこと、改めまして深くお詫び申しあげる次第であります。

この事故を教訓といたしまして、防災対策工事の実施は基より、避難誘導方法再確認やお客さまへの適切な情報開示、さらには復旧に向けた教育訓練を徹底し、無事故や安全・安心な運行の推進に向け再スタートを切った次第であります。

当報告書には、その他にも、当社が安全目標達成に向け取り組んでまいりましたさまざまな事柄を記載しております。輸送の安全に向けた今後の当社の取り組みの糧にしたいと思いますので、どうぞ皆さまの忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければと存じます。

箱根登山鉄道株式会社

取締役社長 府川 光夫



2. 基本方針と安全目標

当社は、輸送の安全を確保するため、経営トップである社長をはじめとする経営管理部門から第一線の現場で働く現業実施部門の全従業員までが一丸となり、安全第一の意識をもって、次に明記する安全行動規範を基本的な方針として事業活動を行い、安全輸送に努めています。

(1) 安全行動規範

- ◆ 一致協力して輸送の安全の確保に努める。
- ◆ 輸送の安全に関する法令及び関連する規程（安全管理規程を含む。）をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する。
- ◆ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努める。
- ◆ 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをする。
- ◆ 事故・災害などが発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとる。
- ◆ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保するとともに共有化を図る。
- ◆ 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する。

(2) 安全目標

2012年度の安全目標は次のとおりでした。

- ① ヒューマンエラーによる運転事故ゼロを継続します
- ② ヒューマンエラーによるインシデントゼロを継続します
- ③ 鉄道係員、車両、鉄道施設に起因する輸送障害ゼロを目指します

2012年度は、列車脱線事故を1件発生させたほか、有責による輸送障害が5件発生いたしました。今年度は従業員一同、運転事故、インシデントを発生させないことを目指し、目標達成に向け取り組んでまいります。

3. 事故の発生状況とその再発防止措置

(1) 鉄道運転事故

2012年度は鉄道線で1件発生いたしました。

● 列車脱線事故(2012年6月19日 20時36分発生)

接近した台風4号により発生した落石に下り列車が乗り上げ、先頭車両前車第1軸が左に25cm脱線しました。お客さまにけがはありませんでした。この事故で鉄道線が116本運休しました。この事故を受け、全線の斜面点検を実施したほか、落石発生箇所の落石防止対策工事を実施しました。このほか異常気象時取扱細目の規制値の引き下げなど改正を安全側にいたしました。

過去5年間の鉄道運転事故の発生件数と死傷者数の推移は次のとおりです。

年度	2008	2009	2010	2011	2012
事故件数	0	0	0	0	1
死傷者	0	0	0	0	0
うち死亡者	0	0	0	0	0

(2) 災害(大雨や台風、大雪など)

大雨による運休が2件、台風による運休が1件、大雪による運休が1件、雷による運休が1件ありました。内容は以下のとおりです。

- 大雨の影響では、2012年5月3日に鉄道線56本、鋼索線18本の列車を運休しました。
- 台風の影響では、2012年6月19日に接近した台風4号により鉄道線16本の列車を運休しました。また、2012年9月30日に接近した台風17号により2日間で鉄道線・鋼索線合わせて130本の列車を運休しました。
- 大雪の影響では、2013年1月14日に鋼索線28本の列車を運休しました。
- 雷の影響では、2012年9月2日に鉄道線・鋼索線合わせて25本の列車を運休しました。

(3) 輸送障害(30分以上の遅延や運休)

2012年度は鉄道線で4件、鋼索線で1件発生しました。主な内容は以下のとおりです。

① 鉄道線

● 車両故障(2012年6月4日 13時48分発生)

下り列車が仙人台信号場発車時に、一部の車両が動かなくなりました。この影響により6本の列車が運休しました。電気回路接点の導通不良が原因と判明したため、分解整備を実施しました。

② 鋼索線

● 制御回路故障(2012年5月9日 12時26分発生)

走行中の列車が終端駅に進入する際、自動的に非常ブレーキが動作しました。この影響により10本の列車が運休しました。制御回路内の継電器が火山性ガスにより腐食したことが原因と判明したため、補助継電器を交換しました。

(4) インシデント (事故の兆候)

2012年度はありませんでした。

(5) 行政指導など

2012年度はありませんでした。

4. 輸送の安全確保のための取り組み

(1) 安全重点施策

2012年度は、輸送の安全を確保するため下記施策を実施しました。

◆ 踏切保安度向上工事

当社では、沿線の踏切について踏切事故を防止するため、4カ所の踏切に踏切支障報知装置(非常ボタン)を新設する工事を実施しました。今後も引き続き、設置工事を実施してまいります。また、踏切の統廃合を進めています。35箇所(踏切)のうち18箇所は第四種と呼ばれる警報機・遮断機の無い踏切ですが、2012年度は入生田駅付近の1箇所(踏切)を廃止しました。



◆ 施設改修工事

当社では土木施設の改修工事を計画的に進めています。2012年度は塔ノ峰隧道ほか箱根湯本駅～大平台駅間の隧道内レンガ覆工改修工事を実施しました。今後も引き続き、施設の近代化改修工事を実施してまいります。



◆ 橋梁補修工事

当社では橋梁の補修工事を計画的に進めています。2012年度は登録有形文化財である早川橋梁の塗装工事を実施しました。今後も引き続き、橋梁の補修工事を実施してまいります。



◆ 軌道近代化工事

当社では保安度の向上を図るため軌道の近代化工事を計画的に進めています。2012年度は仙人台信号場～彫刻の森駅間の転てつ機交換工事ほかを実施しました。今後も引き続き、軌道の近代化工事を実施してまいります。



◆ 斜面防護工事

一般に鉄道沿線には数多くの斜面がありますが、当社線は登山鉄道という特性上、沿線斜面の多くが山岳斜面となっているため保安度の向上を目的とした斜面防護工事を計画的に進めています。2012年度は沿線斜面の4箇所において斜面防護工事を実施しました。今後も引き続き、沿線の斜面防護工事を実施してまいります。



◆ 駅施設の安全対策工事

当社では駅施設の更なる安全度の向上を図るため、ホーム転落防止柵設置や手摺設置などの安全対策工事を行っています。2012年度は箱根湯本駅にホーム転落防止柵設置などの工事を実施しました。今後も引き続き、駅施設の安全対策工事を実施してまいります。



◆ 避難用梯子の設置

事故や災害が発生した際、駅間で停車した列車からお客さまが安全に降りていただくため、各編成に1台の避難用梯子を設置しました。この梯子は伸縮式で必要な時に収納箱から取り出して使用いたします。



◆ 睡眠時無呼吸症候群への対応

当社では睡眠時無呼吸症候群対策として、運転士全員を対象として年1回の検査を実施しています。睡眠時無呼吸症候群とは、10秒以上続く無呼吸・低呼吸が、1晩に30回以上、もしくは睡眠1時間に平均5回以上起きることとされています。検査方法は、まず自宅でスクリーニング検査を実施します。これは、一晩体に機器を装着したまま就寝し、起床するまでの呼吸などの状況を記録するものです。この検査で問題があった場合は医師の診断を受け、睡眠ポリグラフ検査などの精密検査を行います。その結果、該当した場合は運転士業務を停止して治療を行います。

(2) 教育・研修

当社では、輸送や皆さまの安全に役立つようサービス介助士の資格取得や普通救命講習を実施しています。2012年度は7名がサービス介助士の資格を取得しました。このほか接客サービス研修などを実施しています。

◆ 閉そく方式変更取り扱い訓練

異常時にも慌てず所定の取り扱いを正しく行うことを目的として、3回の閉そく方式変更（指導通信式）の取り扱い訓練を実施しました。うち1回は小田急電鉄と合同で実施しております。これにより係員の知識・技術向上が図られました。訓練後には必ず反省会を開催し、問題点をすぐに洗い出し次回に活かしています。



◆ 信号てこ取り扱い訓練

当社の信号システムは総合運転所内にある設備機器で集中制御していますが、故障時には駅に設置している連動盤を使用して運転します。このため駅連動盤の信号てこ取り扱い訓練を毎月実施することで不測の事態に備えています。VTRを活用し、模範的な取り扱いを共有する取り組みも行いました。



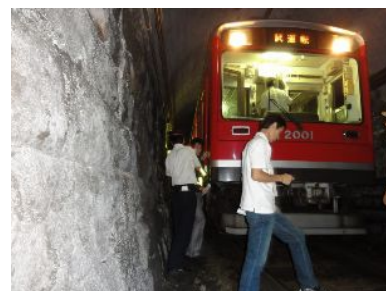
◆ 分岐部の維持管理訓練

線路の分岐部は、駅・信号場において上り列車と下り列車が安全に通過できるように設置された重要な設備です。当社では駅部門と技術部門が維持管理を行っており、合同で訓練を実施、係員の知識・技術向上を図っています。



(3) 異常時総合訓練

2012年9月11日(火)終電後に塔ノ沢駅付近の大ヶ嶽隧道内で本社・現業部門を合わせて31名が参加して列車火災を想定した避難誘導訓練を行いました。これは他社で発生した列車火災事故を受け国土交通省が隧道内を走る各社に訓練の実施を呼びかけているもので、当社では初の試みです。10月11日(木)には鋼索線での異常時訓練を行いました。



2012年11月13日(火)に入生田検車区で本社・現業部門を合わせて71名が参加して異常時総合訓練を行いました。この訓練は実際に列車脱線が起きたときの状況を想定して、情報連絡体制、係員の対応、運転事故に関する規程、長時間停車時のお客さまの避難誘導及び関係従業員の協力体制を確認することを目的としています。



(4) 安全のための投資と支出

安全の維持・向上のため、安全関連設備への投資や施設・車両の修繕を行っています。2012年度は、踏切支障報知装置新設工事やトンネル覆工改修工事などの実施により、安全関連設備投資と修繕費の総額は約6億円となりました。

(5) 安全の日の制定

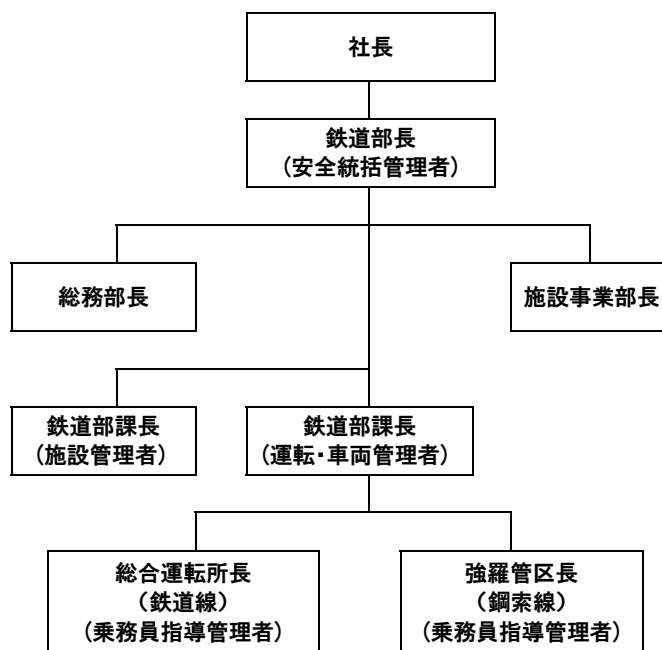
大正15(1926)年1月16日、小涌谷駅～宮ノ下駅間で脱線転覆事故が発生し、18名ものお客さまが亡くなりました。当社ではこの事故を風化させないため、事故が発生した1月16日を「安全の日」として制定し、社長以下の管理職が出席し、事故現場近くの寺院および事故発生場所で犠牲となった方々の追悼供養を行い、無事故の誓いを新たにしています。また、当日の午後は本社・現業の管理者およびグループ会社役員を対象に外部講師による安全マネジメント講演会を行っています。



5. 当社の安全管理体制

社長をトップとする安全管理組織を構築し、各責任者の責務を明確にしています。

2013年3月31日現在



役 職	役 割
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
鉄道部長 (安全統括管理者)	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
鉄道部課長 (運転管理者) (車両管理者)	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項および車両に関する事項を管理する。
総合運転所長 強羅管区長 (乗務員指導管理者)	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。 (強羅管区長は鋼索線乗務員の資質の保持に関する事項を管理)
鉄道部課長 (施設管理者)	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。

◆ 安全管理の方法

「内部監査制度」

鉄道事業における輸送の安全確保に関する業務について、その執行活動が安全管理規程に基づき、適切に実施、維持され、機能していることを確認するとともに、運用の状況を検証および評価することにより、輸送の安全性の維持および向上を図ることを目的として内部監査を毎年実施しています。

内部監査においては安全統括管理者、鉄道部課長、課長代理、現業長に対するインタビューと書類確認により実施し、その内容に基づき結果を通知し、結果に対する改善報告書を作成させ、後日、改善報告書のとおり業務が改善されているかどうかを確認するフォローアップ監査を実施しています。

「鉄道安全推進委員会」

本社部門では社長を委員長として、役員と鉄道部長・課長などが出席して、事故の未然防止と再発防止を目的に毎月1回開催し、前1ヶ月間に発生した事故原因の分析や再発防止対策の良否などを議論しています。

「鉄道安全管理会議」

専務取締役、安全統括管理者、鉄道部課長、課長代理および現業長で構成され、毎月1回開催し、現業間における情報共有や意見交換を行っています。

「無事故推進委員会」

専務取締役、安全統括管理者、鉄道部課長、課長代理、現業長および現業長推薦の一般係員などで構成され、春・秋の全国交通安全運動および夏季・年末年始安全総点検時に開催しています。ここでは事故防止対策、安全意識の高揚、知識技能の向上について意見具申や職場間の連携などを行っています。

「経営トップによる職場巡視」

夏季や年末年始を中心に現業職場の取り組みを確認し、現業係員とのコミュニケーションを通じ、安全文化の醸成に努めています。

「ヒヤリ・ハット報告制度」

各職場で体験されたヒヤリ・ハット報告制度を導入し、日々の業務に反映しています。ヒヤリ・ハットとは事故には至らないものの、そのまま放置しておけば事故のおそれがあるというような事例です。報告された事例は、職場内の対策委員会にて事例を分析し対策を策定し、同種の再発防止と事故への発展を防いでいます。事例は、社内LANを通して現業全社員が共有できるようになっています。

「職場安全管理会議」

現業各職場単位で全ての現業員が参加して1～2ヶ月に一度実施します。情報の共有および社内外の通知事項の徹底などを図るほか、危険予知訓練や異常時の運転取り扱い訓練を定期的実施しています。



「安全に関するみんなの声」

鉄道線・鋼索線の全部署では、安全に関する意見・気づきを“安全に関するみんなの声”として集約しています。2012年度は10件の提案がありました。一例では、風祭駅下りホームの出発反応標識（出発信号機の信号現示状態を表示するもの）に朝日が入り込んで見にくいとの意見があったことから、フードの長いものに交換しました。



6. 地元の皆さまとの連携

(1) 幼稚園で安全教室を実施しました

箱根町の温泉幼稚園および湯本幼児学園で園児に対して、電車の安全な利用方法や踏切の渡り方、置石などに対する啓発活動を行いました。

当社線を利用する園児が多いことから、乗車時の安全や踏切通行に対する啓発活動の一環として実施したものです。

今後も同様の活動を実施してまいります。



(2) こども110番の駅

昨今、登下校時の児童を狙った凶悪犯罪が多発していることから当社では、本社、箱根板橋、風祭、入生田、箱根湯本、強羅、早雲山の7ヶ所で「こども110番の駅」の取り組みを行っています。この取り組みはこどもたちがトラブルに巻き込まれそうになった時に駅に助けを求めることで、子供たちを犯罪から守り、被害を最小限度に止めようとするものです。安全・安心な地域づくりに貢献するため、鉄道事業者が全国的な取り組みとして行っています。



(3) 自動体外式除細動器 (AED)

AED (自動体外式除細動器) とは、コンピューターを利用した医療機器であり、心室細動などにより心臓が止まった方に電気ショックを与え、正常な心臓の動きを取り戻させる機器です。医療関係者以外でも安全に使用できる医療機器で、近年では公共施設への設置が進んでいます。当社でも 2007 年度に箱根湯本、強羅、早雲山に設置するとともに救急救命処置の基本となる「CPR (心肺蘇生法)」を身につけるため、当社現業従業員全員が『普通救命講習』を受講し、認定を受けています。



ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。

箱根登山鉄道株式会社 鉄道部
TEL.0465-32-6823 FAX.0465-32-6863
■ 平日 9:00~18:00(年末年始を除く)

2013年(平成25年)9月発行